

(Lonely Night Gathering)

さみしい夜の句会報 第146号 (2023.12.3-2023.12.10)

- ◆ 参加者：馬勝、東ころ、しまねこくん、せば、花野玖、西沢
葉火、中村マコト、水の眠り、石原とつき、温(ぬる)、古城エツ、
風ちひろ、海馬、宮坂菱哲、片羽雲雀、汐田大輝、Eily(エリ
リー・ポーン)、西脇祥貴、おかもとかも、いずみ、みさきゆう、
山羊の頭、鴻鶴之志、燕雀之心、元さん、Eile、鴨川ねぎ、Mont
透影弦、ひなとと。Eto、ダリア200、何となく短歌、さー、
みりん、酔名、やは、小沢史、ももまろうめこ、輪井ゆう、岡
村知昭、天天雷、こつちゃん、風ちひろ、蔭一郎、りゅうせん、
Etokatsu(Kakete)、佐竹紫円、石畑由紀子、碧乃、そら、たろり
ずむ、月立耀、菊池洋勝、しろうと、涼閑、十六夜ノ朔、上崎
はゆき咲くら、まつりべきん、雷(らい)、うつわ、蠶蚕、Tanks、
EJagan、小山あすか、石川聡、池田 突波、月硝子、susu、死
んでるみたいに生きてる子、星野響、ゆりのはなこ、月波与生
(七三名)

◆ 7・7、5・7・5 (川柳・俳句)

鳩尾の痛み月光部屋に入り せば
魔法から冷めてメルカリ行きのチェキ 東ころ
マフラーを家族に加へれば二人 しまねこくん
きのうから左手よりもふしあわせ 岡村知昭
牛井が大きく見える観測所 汐田大輝
外れたら鳩になるべし宝くじ しまねこくん
静電気なのに不思議な顔をして 上崎
テレフォン人生相談冷たし手 しろうと
ALIAA! 語るんじゃない愛なんて 水の眠り
マフラーを首に巻かれるバイオリン しまねこくん

帰れない向日葵と寝たばかりに 石畑由紀子
ジャージ脱ぎジャージに着替えてる厚着 蔭一郎
レノン忌のパンツ開戦日の夢精 海馬
過呼吸の豚が真つ赤な空に似る 汐田大輝
北限の皇帝たちが着ぶくれる 汐田大輝
はやく手を、掴めないなら天秤座 やは
静かに、と馬の毛なみが云っている やは
資本主義なのか精巢の丸 水の眠り
大奥の庭で百年生きた象 はずみ
二丁目のセブンの前で夜の生まれ Emily
巡回の女医から狂ひ出す神楽 汐田大輝
聞いていた話と違う花言葉 中村マコト
冬晴や健診センター窓大き 花野玖

*

戦争の原因つくる救世主 馬勝
ポテトの群れを飼っている 西沢葉火
南極のペンギンにさえ鐘は鳴る 鴨川ねぎ
珈琲に歪んで映る苦い顔 宮坂変哲
カブトムシ張りついて泣く副鼻腔 片羽雲雀
静寂の家電そらんじる中島みゆき 西脇祥貴
古代魚の真似があまりにうまい人 おかもとかも
我儘なところ好きかな人たらし 山羊の頭
冬の昼あなただけの変態です ダリア200
さびしさにライトアップが滲む街 みりん
冬ざれの河川敷にも影ひとつ 透影弦
リカちゃんの眼も私もまっすぐじゃない 小沢史
寝返りを打っても誰に迷惑かけず ももまろうめこ
しかめ顔もかわいい恋もつと噛む 輪井ゆう
終わらないああ副業が終わらない こつちゃん
くるい始める薄暮の動物園 りゆうせん
難病の童貞へ見す餃子の具 菊池洋勝

遠い日の憂い封じて忘れ草 涼閑

使用済み保元・平治の乱募集 まつりぺきん

耳つまらせてトンネルの穴抜ける 雷

大声のま白き宴独り居る うつわ

辛くても生きねばならぬ愛の為 靈夢

鳩鳴いて 氷に閉じ込められた秋 Tonoko

そこを曲がれば砂利道ボイス 小山あすか

はぐらかす白息濃くて濃くて 池田突波

九州の葱ほっそりと膳を統べ 月硝子

雪もよひ舞台は悲劇だけを生み sysyu

竜の玉地上の星と心得て 佐竹紫円

星冴えてもう戻れない未分化に 星野響

*

ささくれがティラノザウルスになり走る 月波与生

◆ 5・7・5・7・7 (短歌)

インギンチャクはアゲインしかし魔法は男子は失恋 石原
とつき

豚玉をひっくり返す一瞬に自炊の濃さを示した手付き
古城エツ

お盆には後悔したので正月はネットで買った耳栓持つてく
風ちひろ

バムケロとおまじないしてドーナツを揚げるこのまま一緒
にいたい みさきゆう

進撃の巨人に向かう兵団を力強くも華やかに舞う 鴻鶴
之志

駐車場孤独を運ぶエンジンが温まるまで一人ため息 元さ
ん

さざ波にさらわれ夏に手を振った一人ぼっちのさみしい夜

に mine

林檎入り 咖喱食べたき 師走かな冬の窓 轉り奏つ 黄連雀
燕雀之心

屍を蹴り飛ばしたら魂がぼてって落ちてまだ光ってる 透

影弦

大声で笑える人は朗らかと言われて真似る玩具のように
ひなとと。

知ってれば得する事も有るだろに知らないばかりに馬鹿に
されてて Take

ただ独り職場で鼻唄口ずさむ次週の準備が捗る土曜 何と
なく短歌

現実を逃避するよう列をなすコース料理としての現実 さ

1

酔っているときには洗わず酔いが覚めてから洗えと言われ
たこのワイングラス 酔名

かじかむ手 タバコのような白い息 黄昏れるのはオシャ
レ過ぎるか 天天雷

一枚の布を隔てたようにまた世界がすこし遠くなる夜 佐
竹紫田

おぼろかに泣きたい夜はクリオネに喰われ包まれ眠りにつ
きたい 碧乃そら

鑑定団まで観てしまう全自動録画機能があるばつかりに
たろりずむ

息継ぎの下手な私が沈んでるポコポコポコポコポコポコ
ボ 十六夜／朔

冬ざれに知らぬ誰かのため祈る(大丈夫だよわたしでいた
い はゆき咲くら

一瞬の気の迷いから一生を台無しにする一人の一夜 死ん
でるみたいに生きてる子

◆詩

永遠に

あなたのもと

胸に秘める

紫のまだら模様

咲く花の名はホトトギス

誰も知らない

私の涙 (Moon)

最初から心など通じ合ってはいなかったけれど

それをひとりで浮き彫りにして

ひとりで苦しむあなたに

私はどうすればいいのですか

私から離れて泣くあなたに

私はどうすればいいのですか (Kikagen)

誰かと居る時の

ぼっちは

ひとりの時の孤独より寂しい。

だから期待などしない。

ひとり ハシリと

我が道を往く。(温)(三)

◆作品評から

ダンボールに寝ないとみれぬ夢がある 月波与生

この一句、心に刺さりました。あぁきつと路上で頑張

って生きておられる方を想像しました。差別ではなく、そういうところでしか寝れない、胸に刺さる……、せめてあたたかい夢を見て欲しいと思わずにはいられませんでした。(ゆりのはなこ)


朝だけ私の部屋は深海だから溺れて沈め ヴたこ だよ
〜5777の作品。最後の「溺れて沈め」でストーンと落ちる。定型にもできるのだからが深海だからどうしようもない感もわかる。(月波与生)

懐かない犬が困った顔している 雷

〜懐かない犬は必死である。人に捨てられると生きていけないがどうしても人と上手くやっていけない。困った顔をして必死に吠えている。(月波与生)

鳩鳴いて 氷に閉じ込められた秋 Tomoko

〜もう、フランスは随分寒いでしょうね。秋と氷の取り

合わせが気持ちだけ旅行に連れていってくれました 
ありがとうございます。(水の眠り)